

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	社会福祉法人楽山会 第二稚の実子供の家
施設所在地	三鷹市上連雀 6-25-31
日時	2025年4月～12月

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

『自然』～虫との出会い～

<テーマの設定理由>

- ・保育室で飼育している虫や熱帯魚に興味を持ち、観察したり、世話したり姿がある。
- また、園庭の草木に集まって来る虫や生き物を捕まえて触れることを喜んだり、虫の種類や生態に興味を持っている。

### 2. 活動スケジュール

<虫・生き物との出会い> 4～11月

- ・保育室や園庭、散歩先にいる虫を捕まえる。
- ・虫や生き物を観察する。

<虫・生き物を育てる> 6月～10月

- ・捕まえた虫を虫かごで飼育する。

<虫・生き物のことを知る> 4～12月

- ・虫や生き物の観察をする。
- ・種類や生態を図鑑やタブレットなどを使って調べる。

### 3. 探究活動の実践

<活動の為に準備した素材や道具、環境の設定>

・ipad ・カメラ ・顕微鏡 ・虫めがねつき虫かご ・図鑑 ・絵本

<活動の内容>

- ・園庭で虫探しをする。
- ・保育室で虫かごにいれて虫メガネつき虫かごや顕微鏡で観察をする。
- ・虫探して捕まえたカブトムシ(7～10月)、クワガタムシ(8月)コオロギ(10月)、飼育していたカブトムシが産卵孵化→幼虫(9月～)を飼育した。
- ・昨年度から保育室で飼育していたカブトムシの幼虫が蛹になった際に残った抜け殻を

顕微鏡で観察した。

- 図鑑や絵本、ipad を通して虫について調べた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

- 昨年度から飼育していたカブトムシの蛹が脱皮したことに気づく。脱皮後のカブトムシ（成虫）の観察を喜んでいたら、蛹がいたペットボトルの中の土の中から抜け殻を見つけた。
- 殻の表面が幼虫と同じ皺が残っていることに気づき「しわしわ～」、「ツノの形が残っている」、「幼虫の背中と一緒だね」と話す。
- 保育者が絵本「カブトムシの音がきこえる」（小島渉／文 廣野研一／絵 福音館書店）を用意し、抜け殻や成虫、幼虫と並べて観察できるように用意した。絵本を広げ、「今はこの絵（の時期）と一緒にだね」「幼虫は土がご飯なんだね」とカブトムシの成長過程を楽しみながらみていた。



- 1名の子が「コオロギは煮干しを食べる」ことを話していたが、図鑑やipadで調べると野菜の端切れなど何でも食べることがわかった。
- 給食室にお願いし、野菜の端切れなどもらい、虫の餌としてあげて観察した。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- いつもは虫を探す→捕まえるで終わっていたが、飼育する環境・調べる環境を用意することで虫の一生に興味を持って生き物と関わることができた。
- 長期的に子ども達の興味、発見に寄り添うことで子どもの声に耳を傾け、やりたいこと、知りたいことを追求できる環境を用意することができた。
- 顕微鏡は1人ずつでしか観察ができないため、気づきや発見を友達や保育者と共有する難しさもあるようだった。